

街と海と人々の結び目「ランドスケープ・アリーナ」



敷地は陸と海の交通が結節する瀬戸内の玄関口であり、芸術や文化が行き交うかけがえのない場所です。私たちはこの特性を継承し、街と海をつなげ、様々な人々が集い交流する結び目となる建築「ランドスケープ・アリーナ」を提案します。時代を超えて生き続ける普遍性を持ち、立体公園として街と広場と海を結び、イベント時の祝祭性と日常の賑わいを両立させ、何よりそこに溢れる人々の活動こそが香川県の新しいシンボルになる。それが、私たちが提案する「新しい体育館」の姿です。



365日360° 街や海に人々の活動と賑わいが溢れ出すアリーナ

1. 人々の姿と自然がシンボルになる 2. 多様な活用を実現し、街と共に成長する 3. 皆が集まる場をつくり、時間と空間を共有する 4. 香川の自然・気候・風土に呼応する 5. 様々な能力、経験、知識を結集する

1. 人々の姿と自然がシンボルになる

- **自然と調和する柔らかなシルエット**
 - ・複数の広場が重なり合った建築です。
 - ・瀬戸内の島々が生み出す多島島のような柔らかなシルエットを建物全体で描きます。
 - ・自然と調和するおらかな建築が海や街から訪れる人々を迎えます。
- **海、広場、街をつなぐ立体公園**
 - ・ウォーターフロント～多目的広場～シンボルタワー～高松駅まで「海のpromナード」で有機的につなぐことを提案します。
 - ・アリーナ全体がみんなの「立体公園」になります。
- **建物を包み込む人々のアクティビティ**
 - ・人々の活動が香川県の新しいシンボルになることを目指します。
 - ・様々な活動が広場とpromナードに溢れる「人々の建築」をつくります。
 - ・建物内部も吹抜けを通じて異なるフロアの様子が垣間見え、様々な交流を促します。

2. 多様な活用を実現し、街と共に成長する

- **スポーツとイベントを最優先に両立する「コンバーチブルアリーナ」**
 - ・スポーツの集大、プロスポーツセンターコート利用時は臨場感を高めるロの字型観客席を基本とします。
 - ・長辺部分を中間固定可動席とすることでコンサートに最適なシアター型客席にワンタッチで転換可能な「コンバーチブルアリーナ」を実現します。
- **県民/市民利用からバックステージまで変化する「交流リング」**
 - ・アリーナを囲む「交流リング」は日常時は自由に散歩できる回遊路となり、外周の「スイッチルーム」が会議、アトリエ、練習室として利用できます。
 - ・イベント時は必要に応じて選手控室やバックステージなどに交換できます。
 - ・障がい者スポーツを含む、県内スポーツ各団体の会議・研修・事務スペースも検討し、県内スポーツ発達のエンジンとなることを目指します。
- **ホワイエが県民展示・発表スペースとなる「クリエイティブリング」**
 - ・2階のホワイエはリング状の大空間を県民・市民が仕切って使うことが可能です。
 - ・日常時は展示・発表スペース、軽運動や図書・情報コーナーとして利用します。
 - ・アリーナ側の壁「サポートウォール」に可動壁や備品が収納されホワイエを機能的に利用します。

3. 皆が集まる場をつくり、時間と空間を共有する

- **街に開き、多目的に利用できる「まちのアリーナ」**
 - ・建物中央に施設全体のエントランス「まちのアリーナ」を設けます。
 - ・ホワイエのような空間の「まちのアリーナ」は、イベント会場など多目的に利用できます。
 - ・街と海をつなぐ「スポーツストリート」沿いに更衣室やシャワールームのある「スポーツステーション」を設け、スポーツ活動の拠点をつくります。
- **アリーナの内外をパブリック・アートで公園化する**
 - ・設計時からアーティストとコラボレーションするコミッション・ワークと、作品展示のアートスペースの二本立てで建築とアートの一体化を図ります。
 - ・海を望むテラスやホワイエ、promナードなど建築特性を生かしたコミッション・ワークを検討します。
 - ・「アートギャラリー」「アート広場」は場所性を反映した作品や瀬戸内国際芸術祭との連携により時間と共に成長するアート空間を提案します。
- **既存のアート広場を継承する1つの広場**
 - ・既存サポート高松アート広場を継承し、「アート広場」「空の広場」「海の広場」をつくります。
 - ・既存アート作品の移設も検討し、3つの広場を屋外promナードで緩やかにつなぎます。

4. 香川の自然・気候・風土に呼応する

- **温暖な気候を活かしたゼロエネルギー・アリーナ**
 - ・多重庇による日射遮蔽・ライトシェルフ効果、クールチューブとソーラーチームニーによる風の導など、自然エネルギーを効果的に活用します。
 - ・共用部は自然採光・自然通風主体とし、イベントの無い日常はゼロエネルギーの運営を可能とします。
 - ・庵治石、小海石などの石材や、県産木材などの地場産建材を活用します。
 - ・環境への取り組みに県民参加を促し、よりエコ・ムーブメントの起点とします。
- **3つの広場を支え、様々な活動を包み込む構造システム**
 - ・2つのすり鉢型アリーナ、リングトラスと張弦梁による軽快な屋根、2つのアリーナ屋根を一体化して免震装置を備えた合理的な構造システムとします。

5. 様々な能力、経験、知識を結集する

- **若い感性と高い実現性のコラボレーション**
 - ・経験豊富な設計者と若手設計者が共同して業務に取り組みます。
 - ・日本を代表する構造家とランドスケープデザインの専門家を協力事務所として配置します。
 - ・県関係部局、地域の関係団体、芸能プロダクションなどこのプロジェクトに関わる方々と精密なコミュニケーションをとり、設計内容に反映させます。



国際会場からの眺望。瀬戸内の美しく穏やかな島々と海を背景にアートや人々の活動が見える。



高松の新街並みと一体になって新しいシンボルになるおらかな外観



フェリーターミナルから来る人々を「海のpromenade」が優しく導く

●積層する広場とそれをつなぐ「海のpromenade」

2つのアリーナの周りには様々なレベルで内外に広場が積層し、それを立体的な回遊路「海のpromenade」がつなぎます。地上レベルは多目的広場につながる「まののアリーナ」、2階メインホワイエは海が見える「海の広場」、屋上の「アート広場」や「空の広場」まで各レベルに誰もがアクセスできる広場を積層し、全ての広場に「海のpromenade」を通過して誰もがアクセスできます。



「さめき高松まつり花火大会」が開催されるため花火がよく見えるアート広場にたくさんの人が訪れています。



1階レベルにアリーナや更衣室、更衣室があるため、障がい者スポーツ大会に利用できます。



スポーツストリート先の先にあるスポーツステーションに立ち寄り、荷物を持ってランニングに出かけます。便利な水場や受付もあります。



奥座の「倉」・「農村」が集まる「さめきマルシェ」にたくさんの人々が訪れています。

「アート広場」

瀬戸内国際芸術祭、さめき高松まつり花火大会、トライアスロン大会、瀬戸内マナーフェスティバルなどの祭典、サテライト会場としても利用できます。

「空の広場」

デッキが広がる開放的な広場です。近隣マンションと距離をとりつつ、屋上を利用したイベントも開催できます。

「海の広場」

「まののアリーナ」から大階段でアクセスする面へ開かれた広場で、シーフロント「promenade」や屋上の広場を結ぶ起点になります。

多目的に利用できる「まののアリーナ」

大きな空間を利用してさめきマルシェやさめき映画祭、同じく国際ピアノコンクールなどのイベント。また立席内には情報センターとしても運営できます。日中は1階運動場もできます。可動の生草やブース、卓球台などを観覧席から出すことで、スポーツを身近に感じられる広場の生まれます。

活動を支える「サポートウォール」

メインアリーナ外周壁に間仕切り壁や音響、照明器具、商品などを収納した「サポートウォール」を計画します。

「交流ラウンジ」

スポーツ団体のコミュニティ活動や県民市民の文化活動を行うことができ、スポーツの輪を超えた多様な交流を生み出します。隣接する「スイッチルーム」で研修会や会議などを行うことができます。

「符合ライブラリー」

スポーツやアート、観光情報などの本・情報を含むライブラリーを構築します。県内の公立図書館とも連携し、周辺住民やオアスワーカーが安全に利用する地域の情報ステーションとなります。

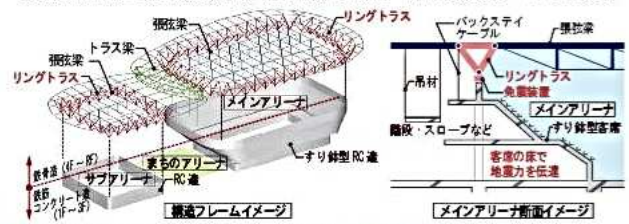
「アートギャラリー」

アーティストによるコミッションワークを構築します。このギャラリーを起点にアリーナ全体にアートを広げていくことを検討します。瀬戸内国際芸術祭、香川県立ミュージアムなど周辺施設との連携やショップイベントを誘致するきっかけを作ります。



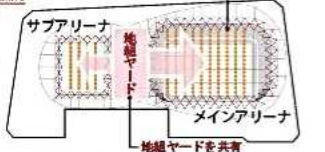
●リングトラスと張弦梁による合理的で経済的な大空間

アリーナの屋根構造はリングトラスと張弦梁によって大スパンを成立させ、鋼材量の少ない軽快な構造とします。1F～3Fの客席はすり鉢型のRC造によって地盤力を伝達し、安定感のある堅牢な構造とします。メインアリーナとサブアリーナの屋根の重なりによりトラス梁を形成することでロングスパンを可能にし、「まののアリーナ」の柱本数を大幅に減らします。張弦梁上部は荷重負担を減らすため、金属屋根+軽量緑化パネル+太陽光発電パネルとします。



●スライド工法による工期短縮と工事費の削減

鉄骨連打はコンパクトな仮設計画が可能なスライド工法を採用します。大きなクレーンを使わないが高く、高所作業が削減することで安全性が高く、また短工期で職人手配の合理化が可能です。地組ヤードはメインアリーナとサブアリーナ間に設け共有することで、仮設費を削減します。



●市民・団体の参画、アーティスト・各種専門家とのコラボレーション

市民ワークショップやアーティスト参加型ワークショップの開催、瀬戸内国際芸術祭との連携、芸能プロダクション等興行イベントの専門家との協働などを行いながらプロジェクトを推進します。

	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度
基本設計	2018.10 基本設計完了	2019.11 実施設計完了	2020.11 計画通知等	2021.11 建設工事約33ヵ月	2024.11 竣工	2025.11 供用開始
実施設計						
計画通知等						
建設工事						
竣工						
供用開始						
市民・団体の参画	市民ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ
アーティスト・各種専門家とのコラボレーション	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ	アーティスト参加型ワークショップ



駅から向かう人々を大きく迎え入れるメインエントランス



サポート高松大ホールホワイエからの眺望、人々の様々な活動が溢れ出す外観



海を背景に、2Fメインホワイエと「海の広場」が連続する

